

令和4年度 学校だより 1月号 1月6日発行

横浜市中区山元町3-152  
電話 641-4857



# やまもと

横浜市立山元小学校  
校長 前島 潤

## 自分を大切にできる子 共に生きる子 山元の子

### 最適解

校長 前島 潤

新たな年、令和5年が始まりました。本年も、教職員一同、子どもたちのため、心を新たに教育活動の充実、改善に努めていきます。ご理解とご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年の11月、12月に行われたサッカーワールドカップカタール大会は、日本チームの活躍もあり、国内でも大いに盛り上がりました。強豪国と一緒にになった予選リーグの突破は大変難しいミッションでしたが、首位で勝ち上がり、ベスト16に進んだことは、素晴らしい結果であったと思います。

メディアを通して多くの日本選手が紹介され、三苫選手など、攻撃の選手に注目が集まりましたが、私が最も素晴らしいと感じた選手は遠藤 航さんです。中盤の守備的なポジションで相手の攻めを何度も防ぎました。クロアチア戦の活躍は特に素晴らしく、ベスト16ラウンドのベストイレブンに選ばれました。

遠藤さんは横浜市で生まれ、湘南ベルマーレでプロサッカー選手になりました。

Jリーグでの活躍後、ドイツに渡り、ブンデスリーガ（ドイツのプロサッカーリーグ）で2年連続デュエル王に輝きました。デュエル王とは、サッカーの試合の中でボールを奪い合う一対一の場面に勝った回数が一番多い選手に与えられるタイトルです。体格やパワーがヨーロッパの選手より劣ると言われている日本人が、このタイトルを取るのには難しいと思われていますが、遠藤さんはそれを2年続けてやってのけました。私は、遠藤さんがどんな人物なのか興味が湧き、自伝を読んでみることにしました。

著書「DUEL～世界で勝つために最適解を探し続けろ」の中で、遠藤さんは、「子育てとサッカーは同じだ。」と記しています。どちらにも「正解」がないと。サッカーでミスしてしま

い、二度と繰り返さないと思っても、また同じミスをしてしまうことがある。素晴らしいプレーができて、同じことが次の試合ではまったく通用しないこともある。子育ても同じで、4人の子どもを育てる毎日が試行錯誤の日々だそうです。もう怒らないと決めても、数時間後には怒ってしまう。昨日、楽しそうにしていたことを、今日も勧めると、「やりたくない。」と言われてしまう。サッカーも子育ても、「正解」みたいなもの、こうすれば必ずこうなるみたいなものはないのだそうです。

そこで、遠藤さんは、サッカーや子育てに限らず、物事に対して「正解」を追い求めるのではなく、「最適解」を探すようにしています。いくつかの選択肢の中から、今、最も適していると考えられる解答を探す。デュエル王になったのも、筋力をつけるために行われる一般的なトレーニングではなく、自分の体を最も効率的に動かすことができる、自分の体に最適な筋力トレーニングを探し、行った結果としています。

私は、遠藤さんの考え方にとても共感できました。それは、学校経営、学級経営、授業づくりにも「正解」がないと思うからです。授業を例にすると、自分でうまくいったと思う授業も、目の前の子どもが違えば、全く違った反応が返ってきて「あれっ。こんなはずでは。」と思うことがあります。大切なのは、目の前の子どもたちの実態を見とり、実態に合った最適な授業、学級経営、学校経営を探し、行うことです。

本校では、これからも、子ども一人ひとりの見とり、学級、学校としての集団の見とりを大切にしながら、教育活動の「最適解」を探っていきたいと思います。

### 秋冬野菜収穫祭ウィーク

12月12日(月)から12月16日(金)を収穫祭ウィークとし、農園で育てた秋冬野菜の収穫を祝う活動として、各学級の栽培取組活動の紹介、農園写真コンテスト、白菜収穫コンテスト、収穫を祝う集会を行いました。今年も立派な白菜や大根が収穫できました。子どもたちは大喜びです。

また、この一週間は、収穫した野菜を給食の食材とし、食べることを通しても収穫の喜びを味わいました。自分たちで育て野菜は、やっぱりおいしいです。

12月16日(金)は、ここまでお世話になりました農園ボランティアの方々をご招待し、感謝の気持ちを伝えるとともに、子どもたちと一緒に給食を召し上がっていただきました。ボランティアの皆様、農園の活動にご協力をいただき、誠にありがとうございました。